



下大竹だより

第67号
発行:下大竹自治会
発行日:
2022年7月1日

回覧

下大竹自治会 2022年1月～5月活動報告

1月 1日(金) 八幡神社 歳旦祭(会長対応)
 9日(日) 新春市民の集い(会長対応)
 15日(金) 集会所建設委員会
 22日(土) 防犯パトロール<中止>
 23日(日) 伊勢原市防災訓練<中止>
 25日(火) 南地区自治会長会議(会長対応)
 29日(土) 1月度定例役員会

2月 12日(土) 八幡神社 祈年祭(会長対応)
 22日(火) 防犯パトロール
 25日(木) 南地区自治会長会議(会長対応)
 26日(土) 2月度定例役員会

3月 8日(金) ポイ捨て防止パトロール
 12日(土) 臨時役員会
 22日(水) 防犯パトロール<中止>
 25日(金) 南地区自治会長会議(会長対応)
 26日(土) 3月度定例役員会

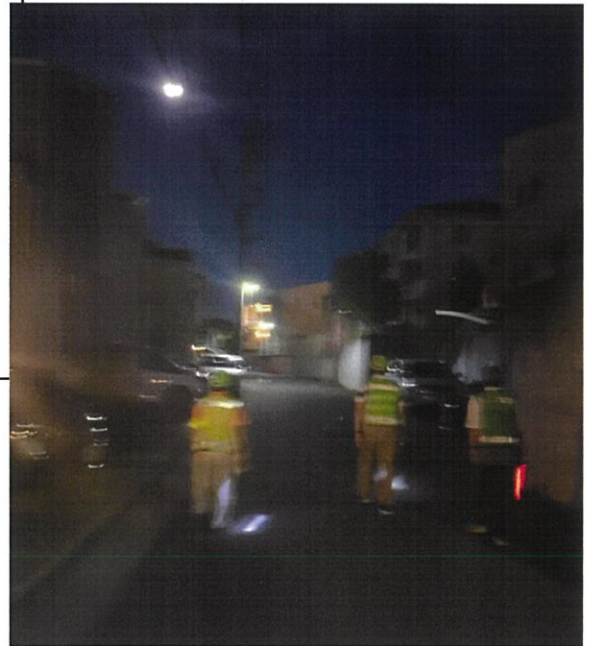
4月 2日(土) 八幡神社 例大祭(神事のみ・会長対応)
 3日(日) 会計監査
 10日(日) 集会所管理委員会
 16日(土) 総会資料まとめ
 22日(火) 防犯パトロール
 23日(水) 大竹青心会総会
 24日(日) 南地区自治会長会議(会長対応)
 30日(土) 4月度定例役員会

5月 7日(土) 八幡神社との懇親会(会長対応)
 15日(日) 民生児童委員との懇親会
 22日(日) 防犯パトロール
 25日(水) 南地区自治会長会議(会長対応)
 28日(土) 集会所建設委員会
 5月度定例役員会



▲ポイ捨て防止パトロール

▼防犯パトロール



納涼まつりの中止について

「新型コロナウイルス感染症に関するまん延防止等重点措置」が終了されましたが、県内をはじめ伊勢原市内では感染者の発生が継続しており、終息時期が見通せないこと。

また、下大竹自治会は会員数(世帯数)が多く、開催にあたっては3密条件である「密集、密接」をクリアできないことなど。

今年8月6日(土)を予定しておりました「納涼まつり」は中止といたしました。自治会活動への、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

史跡と文化財のまち いせはら

八幡台遺跡から岡崎城跡へ③

岡崎城跡①

岡崎四郎義実(おかざきしろうよしざね)は、源頼朝(みなもとのよりとも)の旗揚げから参加した古参(こさん)の御家人(ごけにん)である。この岡崎義実が治承(じしょう)年間(一一七七〜一一八一)に築き、本拠としたといわれるのが岡崎城である。その頃の岡崎城は、平塚市の岡崎を中心としていたとされ、標高35mほどの伊勢原台地の南端に立地する。後の岡崎城よりは狭い範囲であったと考えられているが、「要害厳しく支度せり」と評価される城であった。東側の渋田川

と西側を流れる鈴川にはさまれ、鈴川は岡崎城の西側で大根川と合流する。その大根川を隔てた大根台地には息子義忠(よしただ・真田与一)の実田城(さなだじょう・平塚市真田)が位置していた。また、岡崎氏は、中村氏(中井町)、土屋氏(平塚市土屋)、波多野氏(秦野市)土肥氏(どいし・湯河原町)ら相模国の武士らとも同盟関係にあり、岡崎の地は三浦氏が相模国西部へ進出する上で重要な拠点であったと考えられる。

その後、建保(けんぼう)元年(一一二一三)に起こった和田合戦で岡崎氏が失脚すると、岡崎城は近藤氏、さらに三浦一族の佐原氏が岡崎を名乗っていることから、その一門が支配したと考えられる。鎌倉幕府滅亡後も相模国守護として権力を相伝(そうでん)するが、上杉禅秀(うえすぎぜんしゅう)の乱(一一四一六〜一一四一七)

後、鎌倉公方足利持氏(もちうじ)によりその職を奪われる。これにより、岡崎城の城主も一時、三浦氏の手を離れたと考えられる。しかし、享徳の大乱(きょうとくのたいらん・一四五四〜一四八二)に際し、三浦道寸(みづらどうすん)は、「相州岡崎の城を取り、近郷を押領(おうりょう)した。明応(めいおう)三年(一一四九四)、道寸は山内上杉氏側から扇谷上杉(おおぎやつうえすぎ)方となり、岡崎城を中心に相模国中央から東部に勢力を広げた。

今回は、**岡崎城跡②**

抜粋 伊勢原市教育委員会 発行

「史跡と文化財のまち いせはら」